

原発がこわい女たちの会
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2014年01月 | トップ | 2014年03月 》

検索

2014年02月01日(土)

 検索

海老澤 徹さんをむかえて交流会

アーカイブ

1月25日(土)、「子どもたちの未来と被ばくを考える会」主催による学習交流会が開かれた。ゲストの海老澤さんは、元・京大原子炉実験所助教授、言わずと知れた「熊取六人衆」の一人である。会場のビッグ愛9F会議室に集まったのは、赤ちゃん連れのお母さんを含め十数人。気さくにおしゃべりを、というねらいには少人数もいいかもしれないが、ちょっと勿体ない。
 福島原発事故のすぐあと2011年4月23日、「原発がこわい女たちの会」が海老澤さんを招いて講演会を開いた時は、会場のプラザホープ4Fホールいっぱいの人が詰めかけていたなあ。当時はまだ事故の推移もまったく予断を許さない状況で、原子炉がメルトダウンしている可能性が極めて高い、と聞いたのを記憶している(東電がそれを認めたのは5月半ばになってからだった)。

今回海老澤さんからは、事故による放射能の大気中大量放出と放射能汚染水の漏出、そしてそもそも何故このような大事故に至ったのかその根本的な要因は何だったのか、そして食品の放射能汚染の最新情報など、現状に即して専門的な知見を話していただいた。
 対等なレベルで話し合う交流会のイメージとは違ったが、原発問題のプロからお聞きするレクチャーと質疑の学習会は十分刺激的で有用であった。



以下、とくに印象的だったことをあげておく。

・**福島原発は致命的欠陥を持っていた。**福島第一原発の立地は阿武隈山地から流れる多量の地下水を含み、まるで水に浮かぶ原発サイト。この軟弱地盤のため送電鉄塔も簡単に倒壊し外部電源を喪失させ、現下の汚染水問題でも元凶となっている。多重的に安全が確保されるような機器設計の基準が、無視されていたことも大きい、ということだ。こんな原発を許可した保安院(当時)の責任は重大である。
 安全が何より重視されなければならないのに、**コスト削減の優先、隠ぺいして逃れようとする事なかれ主義、**がまかり通るのが原子カムラなのだと再認識。そういえば、東電社員として勤め上げた蓮池透さんも同じことを書いていた。重大な瑕疵が見つかったときなぜ改めなかったのかといえば、まずコスト。もう一つ、それまでの安全審査が問われるから、これまでは危険だったことを認めたくないから、だそう。はからずも内部告発の書となっていると思いがながら読んだことがある(『私が愛した東京電力』、かもがわ出版、2011)。これって東電に限らないかもしれないが。

・**原発は自国に向けられた核兵器である。**たとえば他国からミサイル一発を原発に撃ち込まれば、国土の広範囲に壊滅的被害が及んでしまう。脆弱さという点では地震津波以上かもしれない、だから原発事故の危険因子の第一番は**国際情勢**なのだと指摘された。
 一方で、原発は軍事転用の危険と常に隣り合わせだ。原子炉で発生するプルトニウムを材料に原爆がつくれるのだから。「原発は核の潜在的抑止力のため必要」と放言する自民党幹部もいる。いや放言というより権力者の本心であり、原発を手放さない理由が、電力供給とそれ以上に核抑止力、ということらしい。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)